

木をつくる

増え続ける 1 日最大給水量

水は沢山に
売れても……

夏は水をたくさん使う季節

ですが、水の使用量のピークは、毎年梅雨あけの七月下旬から八月のお盆の頃までです。

年間を通じてもっとも水のたくさん出た時の水量を、一日最大給水量といいます。商売でいえば、一年で一番水が売れた日、もうかつた日のことですからたいへん喜ばしい日となりますが、水道事業ではそういうわけにもいきません。商品はこの日のためにあらかじめ大量に在庫を確保しておけばよいのですが、水は一定以上の在庫ができません。

さる七月四日にも審議が開かれ、今年四月の料金改定は見送ることができたものの、今年度末には赤字必至の状況から、今回の答申には料金改定の問題も含めることにしてその改定時期をいつにするか、また、いかにして市民の負担増を少なく抑えるかについて意見交換を行いました。

委員からは、料金改定の時期をめぐるいろいろな意見が出されましたが、さらに慎重を期して、今後審議を重ねていくことも八月中旬までに市長への答申を行うことで意見が一致しました。

それには、浄水場の水をつくる能力には限界があります。たった一日のために過大な施設をつくっておくわけにもいかないのです。

しかし、この一日最大使用水量に即した施設を用意していかなければなりません。水の使用予測、施設の拡張などすべての基本となるのがこの数値なのです。

左のグラフは、昭和三十六年度から五十一年度までの一日最大給水量の変化です。四

十三年までは二万立方メートル以下でしたが、四十四年に二万立方メートルを越え、特に五十一年度から急激に増え、五十二年度ではついに三万二千立方メートルを越えました。

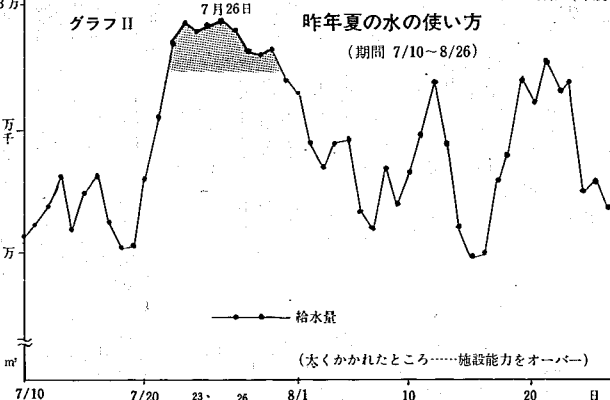
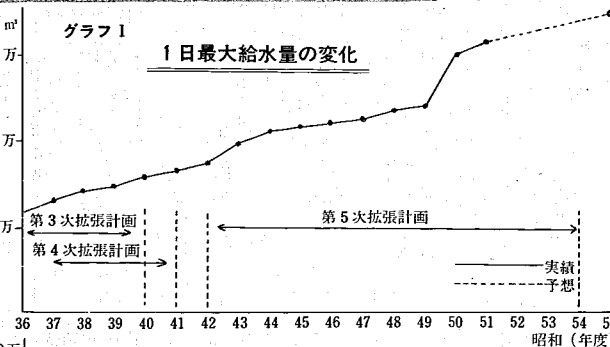
現在進められている第五次拡張計画では、五十五年に一日最大給水量三万六千立方メートルを予想していますが、生活程度が進むほど水を多く使用しますから、すぐにも次の拡張を準備しなければなら

ない状態です。

左のグラフは、昨年の七月十日から八月二十六日までの給水量の変化を表わしたものです。浄水場の水を製造する能力は、現在一日二万七千立方メートルですが、七月二十二日から七月三十日までの九日間、連日施設能力をオーバーする水が使われたことになります。こんなとき浄水場では、昼夜兼行でフル運転、背息吐息で送水しています。

八月中旬には 第三次答申を

水道事業審議会
水道事業審議会（加藤繁三会長）では、いま八月中旬の答申をノドに、第三次答申案を審議しています。



お買物、ご用命は市内で

全国菓子大博覧会有功大賞受賞!!

平和塔最中・祝儀・仏式・お菓子



新津市本町一丁目バスビル前 TEL (2) 0462

お気軽に御来店下さい
サラリーローン

商人の方、事業家の方、どんなでも信用でお貸し致します

(株) 毛利金融新津支店

新津市新町1丁目6番6号 TEL (4) 4501